

乗鞍岳

中部山岳国立公園の南西の一角を占めるのは、岐阜県と長野県の県境にまたがる巨大な火山、乗鞍岳です。「鞍に乗る」という意味の名前にふさわしく、山頂と台地がうねった形をしています。

この山は、最低限の苦勞で山岳の高さと涼しい気候を体験したい人に最適です。乗鞍岳は、3,000メートル級の山の中では最も登山が容易なだけでなく、日本で最も標高の高い道路、乗鞍スカイラインと乗鞍エコーラインを運行するタクシーかバスで上ることもできます。道路はカバの森を抜け、森林限界を越えて、豊平バス停まで続いています。標高 2,702 メートルの豊平バス停もまた、国内で最も高い場所にあるバス停です。（繊細な高山の環境を保護するため、自家用車の通行には厳重な規制が設けられています）

そこからは、距離と難易度が様々な登山道の選択肢があります。定番の往復三時間のルートは乗鞍岳の最高地点である剣ヶ峰山（3,026m）山頂へと続きます。しかし、乗鞍岳の中でもやや低めの山、魔王岳山頂までの徒歩約十五分の短いハイキングでも、全方向（特に日本アルプスの北部）に広がる絶景がのぞめます。登山道は、国の天然記念物である希少な鳥ライチョウの生息地、花崗岩の岩石とハイマツの原を通ります。運が良ければ、最後の氷河期の氷河が溶けた際に生き残った個体の子孫であるこの高山の鳥の姿を垣間見られるかもしれません。ライチョウの繁殖シーズンは5月下旬から6月上旬です。ライチョウは一年を通して三回色が変わり、冬にはほぼ完全に白くなります。

乗鞍岳には七つの湖沼があり、その多くはこの山脈を構成する23の山々を水面に映しています。

高地に滞在したい人のために、道路が開いている期間中、バス停の駐車場周辺にある複数のロッジが宿泊場所を提供しています。